佐久市埋蔵文化財調査報告書　第63集

西大久保遺跡群

NISHIOOKUBO

西大久保遺跡Ⅲ

長野県佐久市大字上平尾西大久保遺跡Ⅲ地区報告書

1998. 3

長野県佐久建設事務所
長野県佐久市教育委員会

例　言

1．本書は平成９年７月１４日～７月２２日まで発掘調査を行った、長野県佐久建設事務所の県単高速道関連道路改良事業にともなう埋蔵文化財調査報告書である。

2．発掘調査は佐久市教育委員会埋蔵文化財課が担当した。

3．本書は森泉かよ子が編集・執筆した。

4．本遺跡の遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1．遺跡の略号は次のとおりである。

Ｈ－竪穴住居址，Ｄ－土坑，Ｐ－ピット，Ｍ－溝状遺構

2．挿図の縮尺は次のとおりである。

竪穴住居址・土坑実測図１／８０，遺物実測図１／４を基本とし、異なる場合は図に明記してある。

3．挿図中におけるスクリーントーンは以下のことを表す。

遺構　地山断面－斜線，焼土－砂目，柱痕－砂目極細，粘土－点

遺物　灰釉陶器－砂目極細，須恵器－黒色

4．遺構図の海抜標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として示した。

5．土層・土器の色調は、1988年『新版標準土色帖』に基づいた。

目　次

例言

凡例

目次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至る動機……１

第２節　調査の概要……２

第３節　調査日誌……２

第４節　調査組織……３

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境……３

第Ⅲ章　基本層序……６

第Ⅳ章　遺構と遺物……６

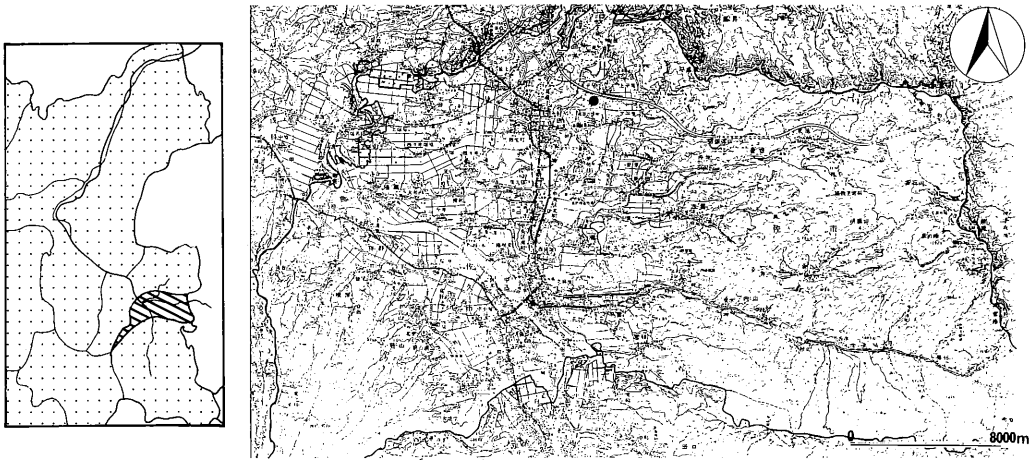
第Ⅴ章　総　括……12

引用参考文献

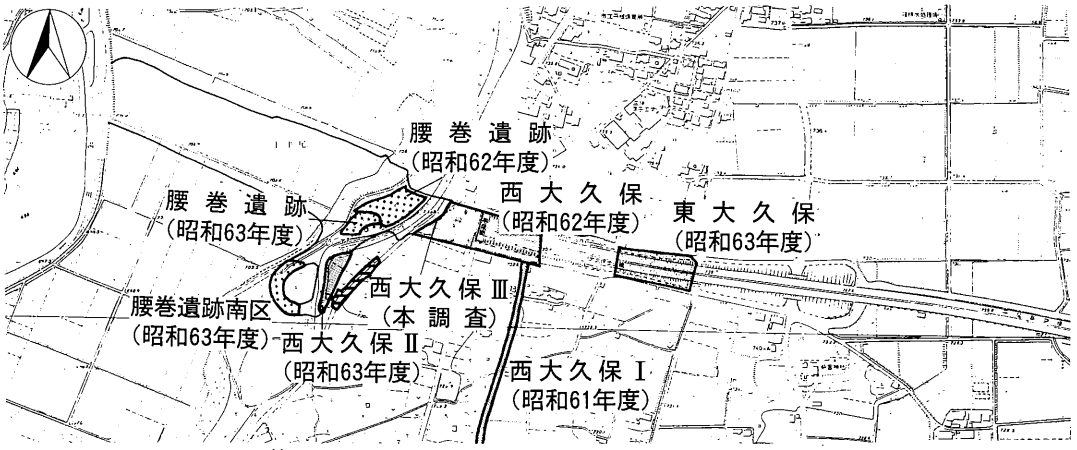
第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　発掘調査に至る動機

西大久保遺跡群は佐久市北東部の上平尾地区にあり、浅間第１軽石流の浸食により発達した「田切り地形」の台地上にある。南に流れる湯川左岸の標高732ｍ地点にある。これまでに昭和61年(1986) に市道平根南北線、昭和62年(1987) 北部幹線道路建設工事事業、昭和62･63年に上信越自動車道により第２図に示した調査がなされた。遺構は検出されていないが、縄文・中世の遺物等が出土している。今回県道草越・豊昇線の拡幅工事に伴い試掘調査をしたところ、溝状遺構が検出され発掘調査することとなった。



第１図　西大久保遺跡Ⅲ　位置図（1：200,000）



第２図　西大久保遺跡Ⅲ・周辺調査状況図（1：5,000）

第２節　調査の概要

遺　跡　名　西大久保遺跡群西大久保遺跡Ⅲ（にしおおくぼ）（略称ＫＮＮⅢ）

所　在　地　佐久市大字上平尾字西大久保651-1，外１２筆

開発主体者　長野県佐久建設事務所

開発事業名　県単高速道関連道路改良事業

調 査 期 間　発掘調査平成９年７月14日～７月22日

　　整理調査平成９年７月23日～平成10年３月31日

調 査 面 積　１２６０㎡

検 出 遺 構　溝状遺構１条

第３節　調査日誌

H9.7.14　発掘調査開始。重機により耕作土を剥ぎ始める。Ｃ地点より調査する。

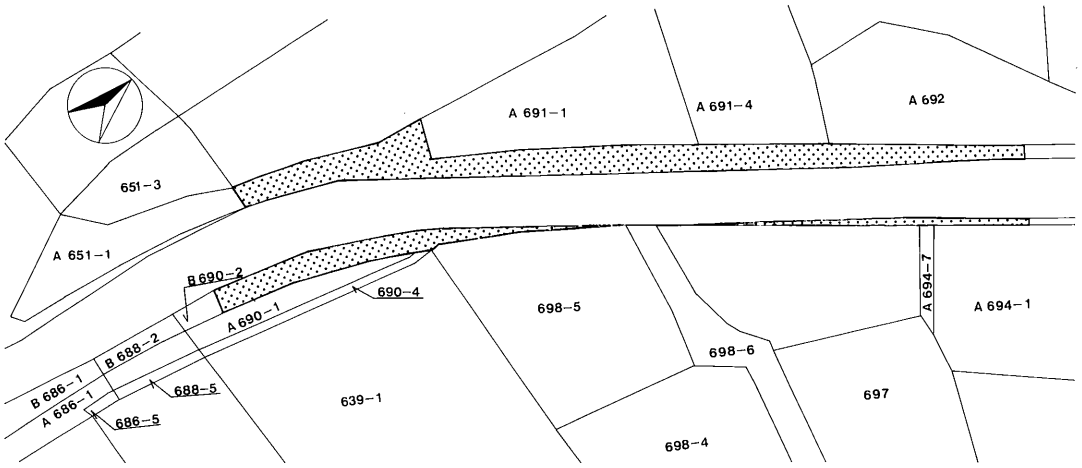
H9.7.15　重機Ｂ地点にはいる。浅間エンジニヤリングに数カ所の測量杭を打ってもらう。

H9.7.16　Ｃ地点の遺構撮影、平面図・土層を実測する。危険であるためＣ地点を先に埋める。

H9.7.17　雨のため現場の作業中止。

H9.7.18・22　Ａ・Ｂ地点の掘り下げ。溝状遺構が深く、幅広いので重機により、可能な土の除去を行う。平面図を作成し発掘調査終了。重機で埋め戻しする。

H10.3.31　現場終了後室内にて整理作業をし、報告書刊行。



第３図　発掘区設定図（1：1,000）

第４節　調査組織

発掘調査受託者　教育長　依田　英夫

事務局　教　育　次　長　市川　源　　埋蔵文化財係　林　幸彦・三石　宗一・須藤　隆司

埋蔵文化財課課長　須江　仁胤　　小林　真寿・羽毛田卓也・上原　学

管　理　係　長　楜澤　慶子　　冨沢　一明

埋蔵文化財係長　大塚　達夫　　調 査 担 当　三石宗一・森泉かよ子

調査員　井上　行雄・上原　幸子・小林　幸子・角田すづ子・角田トミエ・東城　友子

東城　幸子・宮川百合子・水間　雅義・柳沢千賀子・山崎　直

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

本遺跡は佐久市北東部の上平尾地区にある。浅間山麓の末端に当たり、浅間の噴出物である浅間第１軽石流の堆積地域である。浸食により「田切り」地形が発達し、本遺跡の西は断崖となっており第２段丘があり、そして第１段丘の水田を経て、湯川が南に流れ、本遺跡は左岸に当たる。

本調査以前の３回の発掘調査においても、縄文・中世等の遺物は少々あるものの、遺構が検出されず、この西大久保遺跡と東の東大久保遺跡は台地上ではめずらしく原始・古代生活遺構の空白地帯となっている。北の平根小学校の北側にある白岩城跡が（平尾氏の館跡）15世紀半ばに構築されるまで、人の気配のないところだったようである。

この上平尾を含めた平根地区は東に平尾山・八風山の大山系に隣接する所であり、山地の入り際に縄文時代の住居址、また古墳から奈良時代にかけて墓域としての古墳群が注目される所である。６世紀代の直径20ｍを測る蛇塚古墳や７世紀代が中心となろう横根の古墳群、また８世紀代にまで続くのではないかという一本松古墳群など東山の墓域として利用されたようである。また、中世に至り、平尾氏の居城として白岩城・平尾山城が構築され、北山寺遺跡のような中世の屋敷地であろうか居住や倉に使用した竪穴建物址もみつかっている。

本遺跡の西下、湯川左岸の第２河岸段丘に当たる腰巻遺跡からは縄文時代の陥し穴と土坑、古墳時代初頭、平安時代末の竪穴住居址、中世の溝状遺構があった。上段には無く、狭いにも関わらず一段下がったところに集落展開していた。

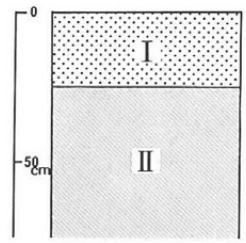
31燕城跡、32筏室遺跡群、33筒畑遺跡群、34蛇塚Ｂ遺跡群、35蛇塚Ａ遺跡群、36東内池遺跡、37高師町遺跡群、38野馬窪遺跡群、39岩村田遺跡群、40大井城跡、41栗毛坂遺跡群、42枇杷坂遺跡群、43長土呂遺跡群、44芝宮遺跡群、45跡坂遺跡群、46延寿城遺跡群、47上の原遺跡群、48延寿城、49芋の原遺跡群、50上長坂遺跡群、51矢沢遺跡群

第４図　西大久保遺跡Ⅲ　周辺遺跡分布図（1：25,000　国土地理院地形図）

第一表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	所在地	縄	弥	古	奈	平	中	備　　考
1	西大久保遺跡	上平尾字西大久保	○				○	○	本遺跡
2	東大久保遺跡	上平尾字東大久保	○				○	○	昭和63年度調査
3	白岩館跡(里古城)	上平尾字古城跡						○	昭和63年度調査
4	潰石遺跡	上平尾字潰石		○	○	○	○		
5	腰巻遺跡	上平尾字腰巻	○		○		○		昭和62・63年度調査
6	宮前遺跡	下平尾字宮前					○		
7	十二前遺跡	上平尾字十二前					○		
8	北山寺遺跡	下平尾字北山寺					○	○	昭和63年度調査
9	橋ケ窪遺跡	上平尾字橋ケ窪			○				平成6年度調査
10	平尾城跡	上平尾字秋葉山						○	
11	下伴助B遺跡	下平尾字下伴助	○				○		平成6年度調査
12	下伴助A遺跡	下平尾字下伴助	○		○		○	○	平成6年度調査
13	丸山遺跡	下平尾字丸山	○				○		昭和63年度調査
14	万助久保遺跡	下平尾字万助久保					○		
15	木田橋遺跡	下平尾字木田橋					○		
16	大角遺跡	下平尾字大角		○			○		
17	岩久保遺跡	安原字岩久保	○				○		
18	光明寺遺跡	安原字光明寺					○	○	昭和63年度調査
19	権現平遺跡	新子田字権現平	○		○		○	○	平成6年度調査
20	池端遺跡	新子田字池端	○		○			○	平成7年度調査
21	境内遺跡	新子田字境内		○			○		氏神古墳群あり
22	新子田神明の木遺跡	新子田字神明の木	○	○	○	○	○		
23	戸坂遺跡	新子田字戸坂		○	○	○	○		昭和46年度調査
24	戸坂城跡	新子田字戸坂						○	
25	浅井城跡	新子田字丑ケ久保						○	
26	桟敷遺跡	安原字桟敷					○		
27	上小平遺跡	岩村田字上小平					○		
28	下小平遺跡	岩村田字下小平		○	○		○		昭和55年度調査
29	戸屋敷遺跡群	安原字戸屋敷					○		
30	東村遺跡群	下平尾字東村	○	○	○	○	○		

第Ⅲ章　基本層序



第Ⅰ層　暗褐色土層（10YR3/3）耕作土。

第Ⅱ層　浅黄橙色(7.5YR8/4) 浅間第１軽石流。

第５図　基本層序模式図

台地は浅間第１軽石流が基盤をなしその上に耕作土が乗っている。遺構は耕作土除去後検出された。

第Ⅳ章　遺構と遺物

写真１　西大久保遺跡Ⅲ　溝状遺構　Ｂ地点（北より）

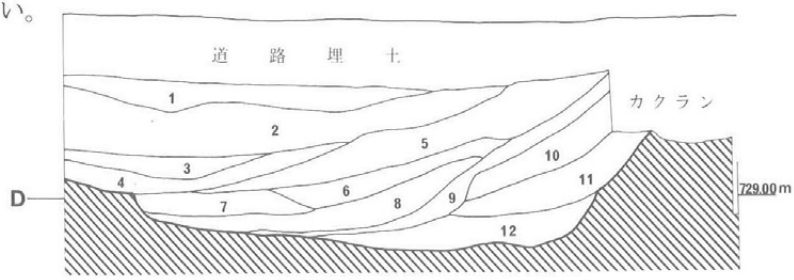
1. 溝状遺構

本調査で検出したのは１本の溝状遺構である。ほぼ県道草越・豊昇線に沿っており、北東から南西方向に延長９０ｍに渡って検出された。南も北も更に連続している。現状の道路との重なり幅の測れる地点はなく、推定値であるが北で４ｍ弱、底で幅1.5ｍ、深さ0.86ｍ、南端で底幅2.2ｍ、深さ0.9ｍを測り幅は南に広くなってくるものと推測される。北と南の底の標高差は1.62ｍあり、南側が低い。地形の傾斜と同じに低くなり、北と南で地表からの深さは変化していない。

溝状遺構土層説明

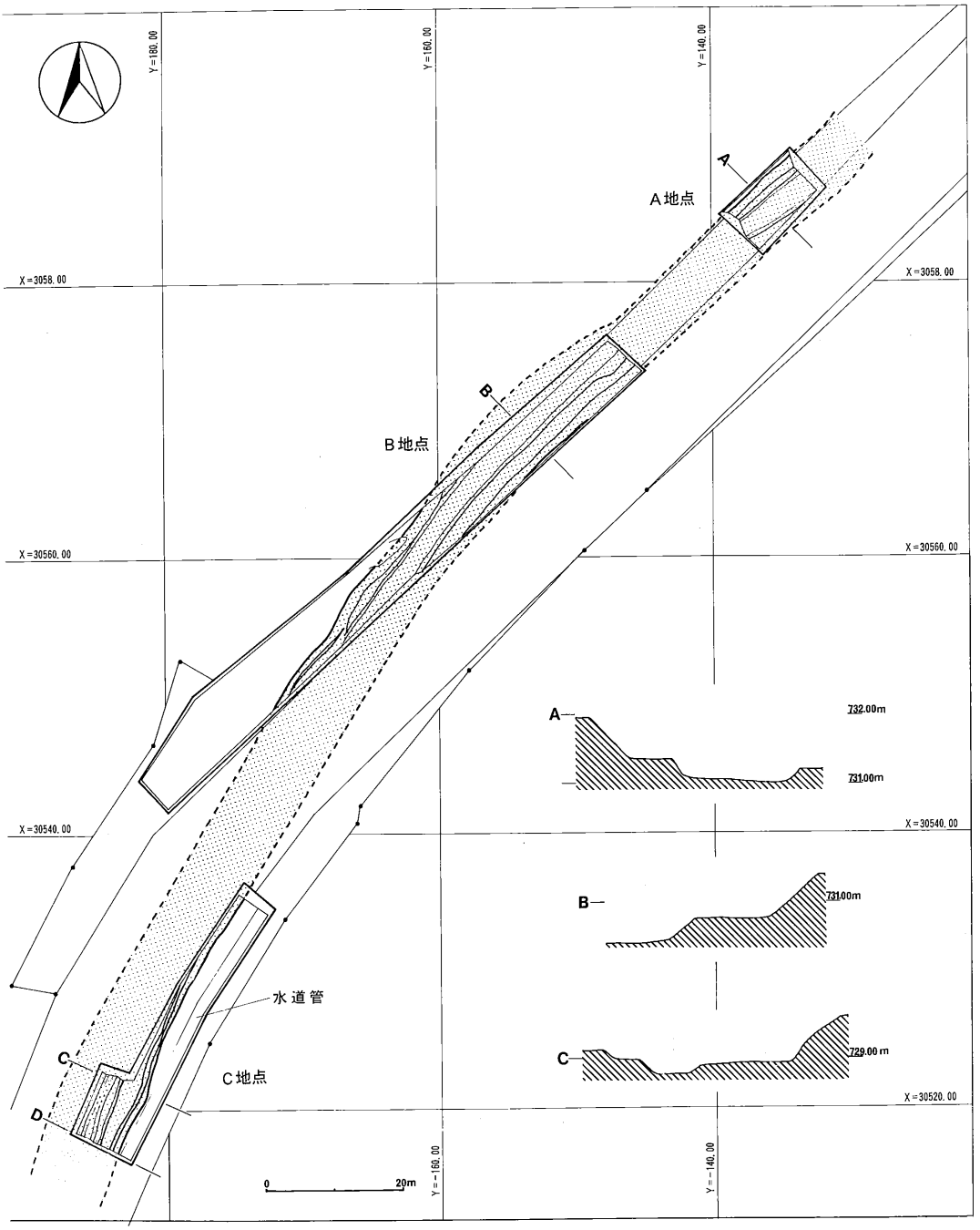
1、黒褐色土（10YR3/2）ローム粒子・パミス含む。
2、黒褐色土（10YR2/3）ローム粒子・～５ｍｍ大パミス含む。
3、黒褐色土（10YR3/2）ロームブロック含む。
4、褐色土（10YR4/4）ローム粒子多量に含む。
5、黒褐色土（10YR3/2）ローム粒子・～５ｍｍ大パミス多く含む。
6、黒褐色土(10ＹＲ2/2）ローム粒子・パミス含む。
7、褐色土（10YR4/4）ローム粒子・～２cm大パミス含む。
8、黒褐色土（10YR3/2）ローム粒子、まれに２cm大パミス含む。
9、褐色土（10YR4/4）ローム粒子・ロームブッロック・パミス主体。
10、黒褐色土（10YR3/2）ローム粒子・～２cm大パミス含む。
11、褐色土（10YR4/4）ロームブロック・ローム粒子多く含む。
12、にぶい黄褐色土（10YR4/3）ロームブロック・～２cm大パミス主体。

この堆積から、浅間第１軽石流の２次堆積土が多く、この溝は３段階の堆積で埋もれた状況がわかる。１層～４層、５層～９層、10～12層である。砂粒は底面の窪んだ所に少々見られたが、層を成すほどではない。



第６図　溝状遺構土層断面図（1：80）

写真２　溝状遺構　Ｃ地点　南端土層堆積状況（北より）



第７図　西大久保遺跡Ⅲ　溝状遺構実測図（1：500　断面図は1：100）

写真３　溝状遺構　Ａ地点（南より）

写真４　溝状遺構　Ｂ地点（南より）

写真５　溝状遺構　Ｃ地点（南より）

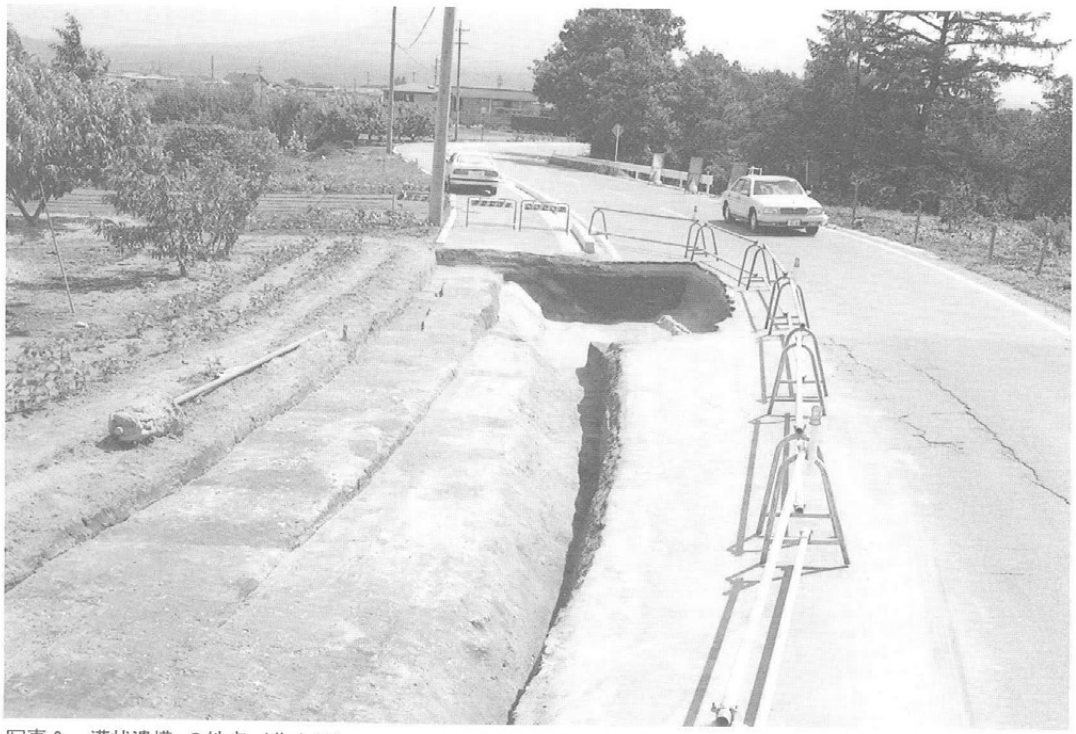


写真６　溝状遺構　Ｃ地点（北より）

出土遺物は試掘の際、縄文時代の安山岩製打製石斧（長さ13.2cm、幅5.7cm、厚さ2.5cm、20.53ｇ）、平安時代の内面黒色処理の坏片が出土している。

本調査では、縄文時代黒曜石製石鏃（長さ2.3cm、幅1.8cm、厚さ3.5mm、0.88ｇ）、深鉢片（中期後葉加曽利Ｅ）、古墳時代土師器甕片、平安時代（？）須恵器甕口縁部片が出土している。

これが全出土品である。平安時代に遺物を含んでいたことから、この溝は平安時代から後の遺構ということになる。

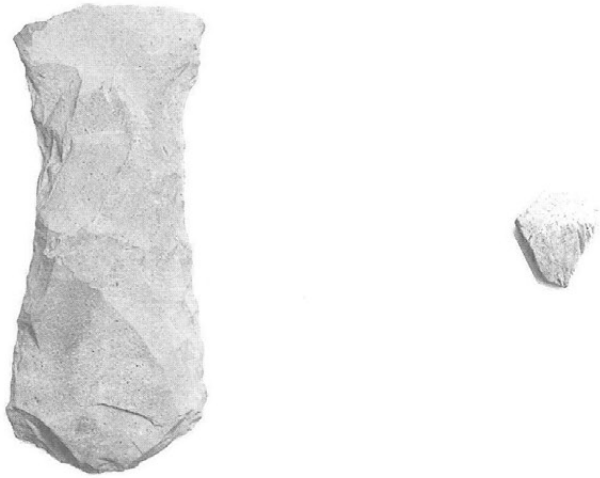


写真７　試掘調査出土遺物（約$\frac{1}{2}$縮少）

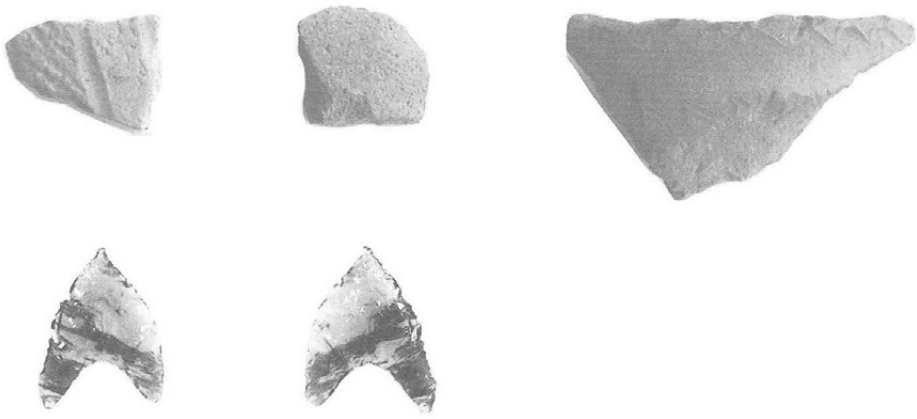


写真８　本調査溝状遺構出土遺物（石鏃は原寸、他は約$\frac{1}{2}$縮少）

第Ⅴ章　総　　括

南西方向に幅４ｍほどの溝状遺構を調査したが遺物も少なく、遺構の性格がつかめるものはない。平安時代の土器小片が出土していることから、埋没し現地形の平坦面になったのは平安時代以降であろう。

西に隣接する西大久保Ⅱにおいて何らの遺構・遺物が出ていないことから、この溝状遺構に特別な意味合いを持たせることなく、第１軽石流の堆積地域に発達している、「田切り」地形ではないかと推測する。ただ１Kmほど北に白岩城跡があることから　全面にわたる調査がなされた時関連性が見いだせるかもしれない。西の一段下の腰巻遺跡（第８図参照）では古墳時代初頭と平安時代の竪穴住居址の他に段丘端に今回検出された溝と同じ方向に溝が走っており、報告書（1991長野県埋蔵文化財センター）では中世の溝としている。白岩城跡との関連性も述べており、今後の資料の増加を待ちたい。

引用参考文献

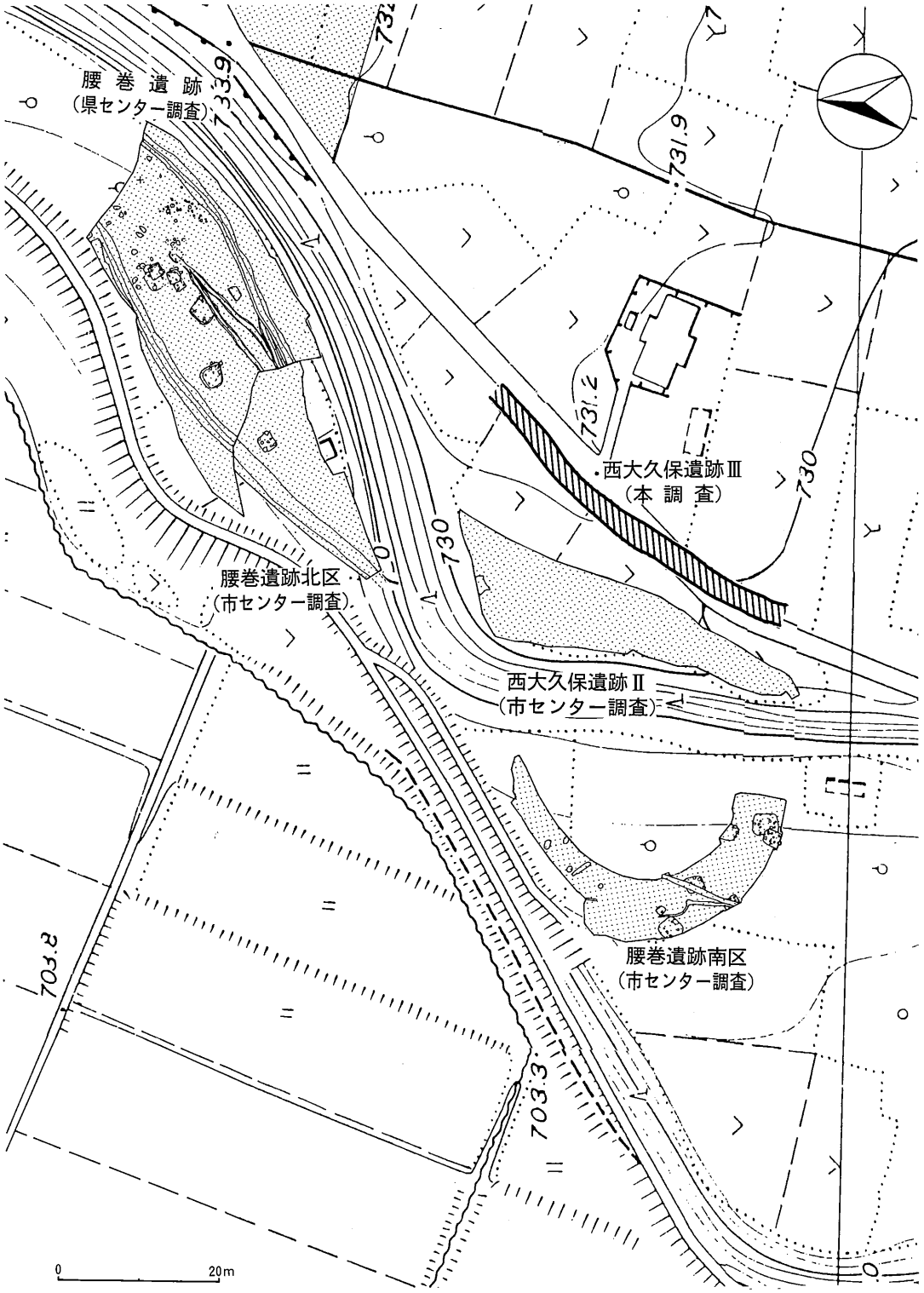
1987　佐久市埋蔵文化財センター『高師町・西大久保』

1988　佐久市埋蔵文化財センター『腰巻・西大久保Ⅱ』

1989　佐久市教育委員会『白岩城跡（里古城）』

1991　長野県埋蔵文化財センター『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』

写真９　調査が終了し歩道が整備された調査地点



第8図　西大久保遺跡と腰巻遺跡（1：1,600）

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第１集　『金井城跡』
第２集　『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第３集　『石附窯址Ⅲ』
第４集　『大ふけ』
第５集　『立科Ｆ遺跡』
第６集　『上曽根遺跡』
第７集　『三貫畑遺跡』
第８集　『瀧の下遺跡』
第９集　『国道141号線関係遺跡』
第10集　『聖原遺跡Ⅱ』
第11集　『赤座垣外遺跡』
第12集　『若宮遺跡Ⅱ』
第13集　『上高山遺跡Ⅱ』
第14集　『栗毛坂遺跡』
第15集　『野馬久保遺跡』
第16集　『石並遺跡』
第17集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』（１月～３月）
第18集　『西曽根遺跡』
第19集　『上芝宮遺跡』
第20集　『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集　『金井城跡Ⅲ』
第22集　『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集　『南上中原・南下中原遺跡』
第24集　『上聖端遺跡』
第25集　『上久保田向Ⅳ』
第26集　『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集　『上久保田向Ⅲ』
第28集　『曽根新城Ⅴ』
第29集　『山法師遺跡Ｂ・筒村遺跡Ｂ』
第30集　『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集　『山法師遺跡Ａ・筒村遺跡Ａ』
第31集　『山法師遺跡Ａ・筒村遺跡Ａ』
第32集　『東ノ割』
第33集　『聖原遺跡Ⅶ・下曽根遺跡Ⅰ・前藤遺跡Ⅰ』
第34集　『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集　『市内発掘調査報告書1993』
第36集　『蛇塚Ｂ遺跡Ⅲ』
第37集　『西一本柳遺跡Ⅱ中西ノ久保遺跡』
第37集　『西一本柳遺跡Ⅱ中西ノ久保遺跡』
第38集　『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集　『中屋敷遺跡』
第40集　『寺畑遺跡』
第41集　『曽根新城Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅳ』
　　上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅳ・Ⅶ
　　西曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ
第42集　『寄山』
第43集　『権現平遺跡』
第44集　『寺添遺跡』
第45集　『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集　『濁り遺跡』
第47集　『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集　『池端城跡』
第49集　『根々井芝宮遺跡』
第50集　『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集　『寺中遺跡・中屋敷遺跡』
第52集　『坪の内遺跡』
第53集　『円正坊遺跡』
第54集　『市内遺跡発掘調査報告書1995』
第55集　『番屋前遺跡』
第56集　『聖原遺跡Ⅹ』
第57集　『高師町遺跡Ⅱ』
第58集　『下穴虫遺跡Ⅰ』
第59集　『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集　『曽根城遺跡Ⅱ』
第61集　『割地遺跡』
第62集　『野馬久保遺跡Ⅱ』

佐久市埋蔵文化財調査報告書第６３集

西大久保遺跡Ⅲ

１９９８年３月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒384-01長野県佐久市大字中込３０５６

埋蔵文化財課

〒385　長野県佐久市大字志賀５９５３

TEL(0267)68-7321

印刷所　株式会社 中 信 社